

同窓会だより

発行者
福岡県立久留米筑水
高等学校同窓会事務局
発行日
令和5年5月



同窓会長 光安 勝憲

青葉の候、久留米筑水
高校同窓生におかれま
しては、ますます御健勝の
こととお喜び申し上げま
す。歴史と伝統のある久
留米筑水高校同窓会の輪
を大切にしていきたいと
考えております。皆様の
御協力をよろしくお願い



校長 土生 賢行

新緑の候 同窓会の
皆様におかれましては
ますます御活躍のこと
とお慶び申し上げます。
また、日ごろから本校教
育活動に対しまして御
理解と多大な御支援を
賜り、心から御礼申し上
げます。

さて、先月七日に令和
五年度入学式を挙行い
たしました。真新しい制
服を着た新入生百四十
名の「農業に関する学
科」「社会福祉科」「食

申し上げます。

新型コロナウイルス感
染症の影響は、国内でも
未だに続いており、私た
ちの生活に大きく響いて
いると感じております。
また外国の情勢不安や物
価高、食の安全、民主主
義の重要性等々の出来事
がいくつも重なる現状の中、
未来の指針を見出すこと
が大変難しいと考えてお
ります。慌ただしさに追
われる日々ですが、多く
の事象が少しでも良い方
向に進展していくことを

切に願っております。

さて、昨年度の同窓会
活動につきまして、新型
コロナウイルス感染症の
様々な影響を受け、多く
の行事を見送らせていた
だきました。全体的な活
動は断念しましたが、各
地域での諸活動は力強く
進展していると同様に
おります。皆様それぞれの
地域・場面での行動力を
積み重ねて同窓会全体の
動きにつなげていきたい
と考えております。御支
援をよろしくお願いいた

物調理科への入学を許
可いたしました。この新
入生は中学校への入学
直前に、全国一斉休業が
決まり、新型コロナウイルス
の感染拡大で、多く
の制限がある中、三年間
の中学校生活を送って
きた生徒たちです。早く
学校に馴染み、久留米筑
水高校で充実した高校
生活を送れるよう教職
員一同力を合わせて新
入生を精一杯指導して
参ります。

連休明けには、新型コ
ロナの扱いが、二類から
五類へ変更になり、以前
の日常に戻ってまいり
ました。今年度は、実習
や地域のイベント等で
本校生徒が日頃の学習
の成果を披露する場面
が増えます。お見かけの
節は、お声かけいただけ
れば幸いです。また、中
断しておりました生徒
海外派遣研修を是非再
開したいと考えて、準備を
進めております。以前と
同様、同窓会の御支援い
ただきますようお願いい
いたします。

一方、急激な少子化に
よる中学三年生数の減
少、私立高校の授業料実
質無償化、特色化選抜入
試の導入及び佐賀県、大
分県の私立高校への生
徒の流出等、本校生徒募
集が更に厳しい状況と
なることも予想されま
す。しかし、同窓会の皆
様が築き上げてこられ



します。

令和四年十一月十三日
(日)にサザンクス筑後
で行われました福岡県高
等学校総合文化祭、郷土
芸能部門福岡県大会和太
鼓部門で久留米筑水高校
の和太鼓部が優秀賞(実
質2位)を獲得いたしま
した。久留米筑水高校和
太鼓部は、新型コロナウイルス
感染症の影響で活
動が制限されている中、
明るい報告を届けてくれ
ました。これからも素晴
らしい結果を期待してい
ます。

去る令和五年二月二十
八日に令和四年度の同窓
会入会式を挙行いたしま
した。久留米筑水高校の
卒業生としての誇りを持
ち、新たな時代を一步一

歩大切に進んで行って欲
しいと思います。皆様の
今後の御活躍を期待いた
しております。
結びに同窓生の御健康
と母校のますますの発展
を願い、会長挨拶とさせ
ていただきます。



和太鼓部 県大会



令和4年度同窓会入会式



令和5年度
久留米筑水高等学校大同窓会
実行委員長 城野 志津夫

同窓会会員の皆様に
おかれましては、ます
ます御活躍の事とお喜
び申し上げます。

令和二年度以来新型
コロナウイルス感染症
の影響で、久留米筑水
高等学校大同窓会にお
きましては、三年間中
止となりました。現段
階では、社会一般に新
型コロナウイルス感染
症に関わる行動制限に
ついては、段階的に緩

和されつつある状況
です。そこで本年度
は大同窓会を楽しみ
にされている皆様が
いらっしゃる事と思
いますので、第三十
九回生、第四十回卒
業生を中心に大同窓
会を開催の方向で準
備を進めております。

しかしながら運営方
法が手探りで始まっ
ています。以前同様
の大同窓会とはいか
ないかもしれません
が、伝統ある行事で
すので皆様が笑顔で
楽しんでいただだけ
る会としていきたいと
思っております。今
後も御協力、御理解の
程よろしくお願い申
しあげます。

最後に久留米筑水高
等学校の皆様と同窓会
会員の皆様、関係各位
の方々の御健康と御発
展を祈願いたしまして、
令和五年度大同窓会実
行委員会を代表いたし
まして、御挨拶とさせ
ていただきます。



注意喚起 (ニセ電話詐欺にご注意下さい)

令和四年度に久留米筑水高校の卒業生になりました人物か
ら、「卒業生の実家にトラブルを解決するためにお金が必要」と
いう内容の電話がかかってくる事象が複数起こっていること
とです。ニセ電話詐欺の被害を防ぐため、電話でお金の話が出た
ら一旦電話を切つて、**すぐにご家族や警察署に相談してください**
い。ひとりで判断せず、必ず誰かに相談して下さい。

同窓会だよりはインターネットでも閲覧できます

- 一. インターネットが使用できる環境でパソコン・スマート
フォン等を使用し、「久留米筑水高校」を検索する。
- 二. 久留米筑水高校のホームページを選択(クリック)する。
- 三. 久留米筑水高校ホームページ内の「久留米筑水高校同窓会
のサイトへ」を選択(クリック)する。
- 四. 久留米筑水高校同窓会のホームページが表示される。
- 五. ホームページ内の各項目を選択(クリック)し閲覧する。

卒業生からのメッセージ

縁(えん)

高等学校五十九回卒業 大久保 裕司

私は平成十八年に久留米筑水高校の生物工学科を卒業し、南九州大学へ進学しました。その後、久留米筑水高校で実習助手として勤務させていただき、公益財団法人久留米市都市公園管理センターを経て現在は、実家で農業を継ぐため就農しました。

在学中は、野菜を専攻し実習を通して様々な体験をすることができました。また、温かい先生方や多くの友人に恵まれ「学校は楽しいに決まっている」のローガンの通りすごく充実した学校生活を過ごせました。

農業で明るい未来を築く

高等学校六十回卒業 末安 貴晃

就農して六年目。子どもの頃から米・麦・大豆を作る祖父を見て育ち「いつかは自分も農業がしたい」と思っていました。久留米筑水高校を卒業後、建築関係の大学に進学し就職したものの一年足らずで辞め、国内・海外を転々とし、ヒッチハイク旅をし、バックパッカーをしていました。

二十六歳のとき祖父が亡くなったことがきっかけで、「農地を守っていかなくては」と思い就農を決意しました。先輩農家の方々に指導をしてもらいながら栽培技術を学びました。今はJA青年部の地域貢献活動への参加や、地域の耕作放棄地問題にも力を入れています。「自分たち若い世代で、地域と地域農業を守っていきたい」と常に考えています。

今年から「採れたて野菜の本場の美味しさを多くの人に知ってもらいたい」と思いキッチンカー「VEGETOBULL」をオープンしました。新鮮野菜を使ったハンバーガーを販売しています。さらに農作業の様子やキッチンカーでの販売の様子をInstagramで発信する事にも力を入れています。SNSで発信する事で国内の若い世代はもちろん、幅広い世代、全国、世界の方々に少しでも農業の楽しさ、厳しさ、食育の大切さなどを伝えられたいと思っています。

Instagramで「takakaiki15、末安農園、VEGETOBULL」と検索してもらえればできますので、興味があれば検索をお願いします。

農業は、野菜を作るだけでなく色々な仕事につな

私は、前述したようにこれまで三回職種を変えています。もちろん一つの職種を長年勤め極めることも素晴らしいことだと思います。ただ、私は様々な職種・職場を経験して良かったと思っています。それぞれの職場で違う立場の見え方があり、様々な物事の考え方や、やり方があること。その時々での交友関係や学びはかけがえのないものだと思います。現在も同業者の先輩、後輩、同級生に相談をしたり一緒に新たな取り組みを計画したり刺激をもらいながら邁進しています。

今の私があるのは間違いなく周りの方々に助けをもらってきたからだと思います。これからも周りの方々への感謝を忘れずに、少しでも力になれる存在になれるように努力していきたいと思っています。



「夢」よりも「今」を生きる

高等学校七十回卒業 権藤 裕史

みなさんは、将来の「夢」はありますか。私は高校三年生のころ、「夢」とはっきり言えるものはありませんでした。

平成二十六年に久留米筑水高校の生物工学科を卒業した私は、学校で学んだ植物バイオテクノロジーの知識をさらに深めたいと大学に進学しました。そんな私は今、食品を扱う民間企業での営業と生産管理の職務を経て、糸島農業高校食品科学科の実習助手として勤務しています。

なぜ農業高校の先生になったのか。それは様々な経験をする中で自己分析を深めていった結果です。大学では勉強・研究の傍ら学園祭運営も経験し、社会に出たらはビジネススマナリーを身をもって学んできました。今は様々な経験の上で成り立っています。そんな数多くの経験の中から見つけ出した共通項が先輩への指導や農業を学ぶことを楽しむこと

職人になるために頑張る

高等学校七十二回卒業 清永 聖矢

私は、令和二年に久留米筑水高校の環境緑地科を卒業し、京都の造園会社に就職しました。就職して間もない頃は、右も左もわからないことばかりで、これから京都という土地で仕事をやっていけるかとても心配でした。最近の仕事に慣れてきましたし、土地勘も掴み充実した日々を過ごしています。

私が日頃従事している主な現場は、天龍寺、東福寺、宮内庁が管轄している施設など世界遺産に登録されているようなお庭の管理を行っています。私の勤めている会社は皆が切磋琢磨し、自分の技術をより高めるために寮制度で生活を行っています。寮での生活は、初めは違和感がありましたが、次第に身につけていきました。寮生活を通して自律心や協調性、奉仕の精神を学んで、心身ともに鍛えられています。

最近私が携わっている現場は、宮内庁が管轄している修学院離宮です。修学院離宮は、お庭の中に宮内庁京都事務所や皇宮警察の護衛官派出所などがあり、厳重に警備されてい

とで、やりがいを感じる事ができるということでした。

みなさんは授業や実習、課外活動等で普通高校に通う友達とは違う経験をたくさん積んでいる最中だと思います。これからの想像がつかないような経験が待ち受けているでしょう。だから今夢がないからと悩み苦しむ必要はないのではないのでしょうか。友達と一緒にいられる今、部活動をしている今、生徒会や農業クラブなどの活動をしている今、そして何でも今。そんな「今」を一生懸命に過ごすことができる、それだけで私は十分だと思います。もちろん失敗してもいい。その経験が将来、輝くみなさんの糧になるでしょう。

最後に、私自身もまだまだ成長途中です。糸島農業高校という「今」を全力で走り、新たな形でお世話になった母校に恩返しが出来ればよいと思います。かけがえのない「今」を生きていける人であること。変化の激しい現代だからこそ忘れないようにしてほしいです。

お庭です。私は庭園内のお馬車道のマツや混ぜ垣の大刈込みなどの仕事を行っています。お馬車道のマツの剪定では、道側から樹木の切り口が見えないように気を付けながら鋏を入れています。混ぜ垣の刈り込みではヘッジトリマーや両手鋏など使わずに、職場の伝統で鎌を使って刈り込み作業を行います。天龍寺や東福寺などのお寺では、お庭の雰囲気を変えないように細かく鋏を入れるだけでなく、鋏を入れる回数を減らして、樹木が自然に見えるよう意識しながら剪定作業を行っています。仕事では大変な事もありますが、これからのみなさんの知識や技術を身につけて、早く一人前になれるように経験を積んでいきたいと思っています。

私は久留米筑水高校の環境緑地科に入学して本当によかったと感じています。それは環境緑地科の先生達がとても明るくて、親身になって指導してくれるからです。さらに、専門的な知識や技術を数多く指導していただき、今でも実習等で学んだことを思い出しながら仕事に取り組んでいます。生徒の皆さんは、自分のやりたいことを早く見つけて、自分の目標を明確にして、楽しい学校生活を送って下さい。